

□ 書 評 □

「血液ガス わかりやすい基礎知識と臨床応用」

〔編集〕 山林 一・河合 忠・塚本 玲三

東京慈恵医科大学教授

井 川 幸 雄

呼吸という燃焼の過程が動物のエネルギー代謝の基本にあることは、ラボアジェにさかのぼる知識である。つまり、人間もロウソクと同様に燃えてその生命を維持しているのである。ところで、その最初の過程である肺におけるガス交換の成否は直ちに血液ガスの値にはね返ってくるわけで、いわばこの値は生体の基本的な生理恒数の1つとあってよい。

血液ガス測定の最初は Van Slyke の検圧法、あるいは検量法に始まり、現在では種々の電極の組み合わせによる自動化機器がもっともポピュラーになっている。このため、血液ガスの用語には検圧法に関連した用語も多く、また多くの歴史的由来をも

つ概念も多い。また使用される記号の体系もかなり複雑になって初学者にとりつきにくさを与えていることも事実である。

山林、河合、塚本三氏の編集の「血液ガス—わかりやすい基礎知識と臨床応用」はこれらの領域に詳しい三氏が編集の労をとられたもので、血液ガスの基礎、採血測定法、各種ノモグラムにふれるとともに、広い臨床例が引用され、それらについての考え方が第一線の臨床医によって述べられている。

従来、この領域の著書も多く、優れたものも多いが、主として、呼吸器病あるいは麻酔関係に興味をもつ著者のものが多かったように思われ

る。この点、本書では呼吸器、麻酔を専門とする研究者のみではなく、脳神経、腎、心、内分泌、消化器、外科(術後)、ICU、中毒、感染などの専門家の広い参加を得て作られたもので、とりあげられている疾病の種類、症例検討などもきわめて多彩で、読んで啓発されることが多い。このように多面的にながめることによって、新しい視野がひらけるので初学者のみならず専門家にもよい座右の書となろう。新生児で採血せずに血液PO₂を知ることできる経皮的酸素電極法によるデータもとり入れられ、内容はさすがに斬新である。

B 5 頁314 図90 写真17 1978 ¥5,000

〒200 医学書院刊